

平成20年3月25日(火)
愛知県産業技術研究所企画連携部
担当 木村、小久保
電話 0566-24-1841
愛知県産業労働部地域産業課
技術振興・調整グループ
担当 石川、高須 内線3360、3361
ダイヤルイン 052-954-6340

共同研究で新技術や新製品を生み出しませんか？

－産業技術研究所と共同研究を行う中小企業を募集します－

愛知県産業技術研究所は、工業技術に関する研究開発や技術相談、依頼試験などのサービスを提供し、中小企業のモノづくりを技術面からサポートしています。

このたび、産業技術研究所では、平成20年度に行う共同研究に参加する企業を募集します。共同研究には、産業技術研究所が開発した成果を事業化するための研究を行う「シーズ提供型」と、企業の方の要望に応えるための研究を行う「ニーズ対応型」の2種類があります。

これまでも多くの新技術や新製品が共同研究から生まれています。
多くの企業の方の応募をお待ちしています。

1. 「シーズ提供型」共同研究

研究所が有する技術シーズを提示し、その技術を応用した新製品等を企業と共同で開発します。今回提示するテーマは以下の3点です。

- ①カーボンナノチューブ添加による工業用部材への応用
(瀬戸窯業技術センター)

カーボンナノチューブをセラミックス中に選択的に分布させ、新たな機能を付与した素材を開発し、工業用部材への応用に取り組みます。

- ②長期保存可能食品の賞味期限設定方法の開発 (食品工業技術センター)

賞味期限が長期にわたる食品を対象として、理化学的、統計学的な分析から得た客観的データに基づく賞味期限の設定方法の開発に取り組みます。

- ③有機無機複合型抗菌剤添加による防藻繊維の開発 (三河繊維技術センター)

当センターが有する混練・紡糸技術を活用し、抗菌性を付与した防藻繊維ロープの開発に取り組みます。

2. 「ニーズ対応型」共同研究

企業の方から提案のあったテーマについて共同で研究を行います。単独では解決困難な技術的課題を研究所の技術力を活用して解決し、新技術の開拓や新製品

の開発に結びつけます。

平成20年度は工業技術部、常滑窯業技術センター、尾張繊維技術センターで行う共同研究のテーマを募集します。

(注) ご提案いただいたテーマが当研究所の研究員とマッチングできないときは、共同研究をお断りすることがありますのでご了承ください。

3. スケジュール

(1) 受付期間

シーズ提供型：平成20年4月1日（火）～4月30日（水）

ニーズ対応型：平成20年4月1日（火）～5月30日（金）

(2) 研究開始時期

担当研究員による調査の実施後、審査会での審査を経て、共同研究契約を締結し、研究を開始します。

シーズ提供型：平成20年6月頃（予定）

ニーズ対応型：平成20年7月頃（予定）

(3) 研究終了時期

平成21年3月31日（火）

4. その他

- ・共同研究から生じた発明等を権利化する場合は、原則として、企業のご負担により出願をお願いします。
- ・研究経費は、企業、研究所がそれぞれ必要な経費を負担することとします。
- ・募集の受付期間以外でも共同研究を行いたいというご要望がありましたら、随時ご相談に応じます。

5. 応募・問合せ先

愛知県産業技術研究所 企画連携部

〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割

電 話：0566（24）1841 F A X：0566（22）8033

愛知県産業技術研究所の所在地等

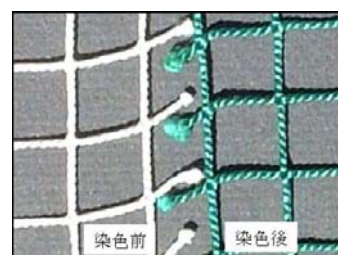
	部・センター名	所在地	電話番号
愛 知 県 産 業 技 術 研 究 所	工業技術部	刈谷市一ツ木町西新割	0566-24-1841
	常滑窯業技術センター	常滑市大曾町4-50	0569-35-5151
	瀬戸窯業技術センター	瀬戸市南山口町53	0561-21-2116
	食品工業技術センター	名古屋市西区新福寺町2-1-1	052-521-9316
	尾張繊維技術センター	一宮市大和町馬引字宮浦35	0586-45-7871
	三河繊維技術センター	蒲郡市大塚町伊賀久保109	0533-59-7146

参考：これまでに共同研究で開発された技術や商品の例

・ **超高分子量ポリエチレン繊維の染色技術**

衣料用の合成繊維に比べ4倍以上の強度を持ち、産業資材として有望ながら、染色出来ないことから用途が限定されていた超高分子量ポリエチレン繊維の染色技術を開発しました。

((株) 大成商会との共同開発)



・ **籐の端材を繊維化する技術、着色技術**

籐の優れた特徴である調湿性を維持しつつ、糸や不織布に加工する技術を開発しました。また、従来法の欠点であった色落ちの問題を解決し、籐の端材を着色して製品の一部として有効利用する技術を開発しました。

((有) 野々山籐屋との共同開発)



・ **熱に強くて割れにくいバイオマス食器の開発**

バイオマスプラスチックであるポリ乳酸には熱に弱いという欠点がありますが、ホタテ貝殻と粘土を混ぜ合わせることで、ポリ乳酸単独より熱に強く、また強度も高める技術を開発しました。

(瀬戸製土(株)との共同開発)

